



学校だより

バンクーバー補習授業校

2026年度

第6号

2026・7・4

言葉を通して、考えを広げる国語の時間

～伝え合いから生まれる新たな気づき～

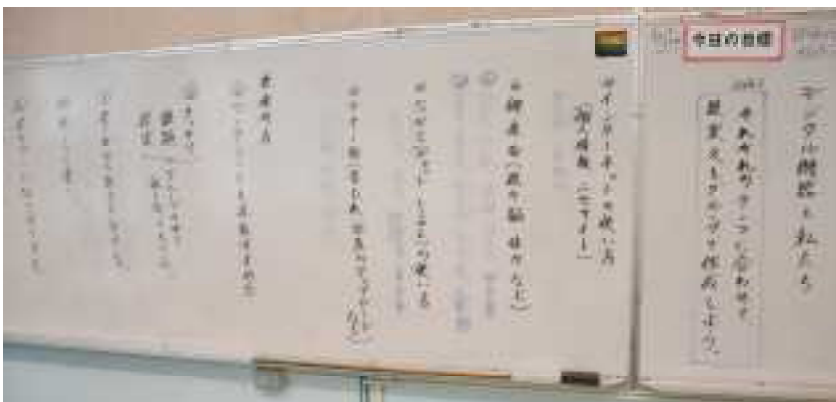
自分の考えを言葉にし、友だちの考えに触れ、さらに考えを広げていくことは、一人では生まれにくい新しい気づきや発想を生み出す学びにつながります。

今回は、6月30日（土）の国語科の授業の中で見られた、子どもたちが自分の考えを持ち、それを友だちに伝え、友だちの考えを受け止めながら学ぶ姿をレポートします。



1年生では、「好きなこと、なかに」という学習に取り組んでいました。自分の好きなことを友だちに話す活動は、一見すると、とても身近でやさしい学習に見えます。しかし、自分の思いを言葉にして相手に伝えることは、子どもたちにとって大切な学びの第一歩です。「何が好きなのか」「どうして好きなのか」を考え、それを相手にわかるように話すことで、自分の気持ちや経験を整理していきます。また、友だちの話聞くことで、「自分と同じだ」「自分とは違うな」という気づきも生まれます。

伝え合う活動が成立するように、担任の先生や補助の先生が寄り添いながら、学習活動を進めていました。こうした小さな一歩の積み重ねがやがては大きな飛躍につながります。



6年生では、「デジタル機器と私たち」というテーマのもと、グループで話し合いながら提案文を作成していました。

高学年になると、伝え合う活動は、自分の考えを述べるだけでなく、友だちの意見をもとに考えを見直したり、より良い考え方を考える学習へと発展していきます。自分一人では気づかなかった視点に触れることで、考えが広がり、内容がより具体的で説得力のあるものになっていくことを期待します。皆が真剣に取り組んでいたことが印象的でした。

伝え合う活動の意義は、単に「話す力」や「聞く力」を身につけることだけではありません。自分の考えを言葉にすることで、子どもたちは自分自身の考えを確かめます。そして、友だちの考えに触れることで、自分の考えを広げたり、深めたり、ときには修正したりしていきます。伝え合う活動は、友だちと関わり、言葉を使って、友だちと関わり、協働で学び合う時間です。